

平成25年度 大分県学力定着状況調査の結果から（国語）

1 小学校国語の結果

- ・偏差値51.2（知識51.4 活用50.2）で、小学校国語の偏差値は2年連続で上昇している。
- ・「読むこと」の領域は、目標値を上回っているが、偏差値は49.7で、偏差値50に届いていない。特に物語を読むことに課題がある。
- ・「話すこと・聞くこと」の領域の偏差値は49.7で、目標値にも届いていない。
- ・漢字の読み書きや文法事項の正答率は全て目標値を上回っている。ただし、文法事項については、正答率がいずれも7割未満で、必ずしも正答率が高いわけではない。

■課題が見られた問題

（1）話すこと・聞くこと

①話し方の工夫を構成に着目して捉える。〈指導事項・話す聞く一イ〉

（正答率59.1%・目標値60.0%）【知識】

②話し合いの放送を聞いて、2人の意見の共通点を書く。〈指導事項・話す聞く一オ〉

（正答率23.8%・目標値30.0%）【活用】

- ・②については、昨年度の調査においても課題となった。引き続き、話を聞きながら意見の相違点と共通点を表などにメモしてまとめる等の学習活動を行うことが求められる。話し合い活動だけでなく、スピーチを聞く活動等で自分の意見との共通点、相違点を明らかにすることから始める必要がある。
- ・①については、「聞く」指導の前に、「話す」指導において、話の構成を工夫することや説得力をもたせるための材料の収集等について指導する必要がある。

構成を工夫して話す活動



どのように構成を工夫しているのかという観点で聞く活動

※話すことの指導事項と聞くことの指導事項が表裏一体となるように単元を構想をすることが求められる。

（2）読むこと

①主人公の気持ちを読み取る。〈指導事項・読む一ウ〉（正答率56.5%・目標値60.0%）【知識】

始業式のあと、恵理菜は自分の教室に初めて入った。とたん、教室中の視線が集まる。恵理菜はきんちょうしてうつむいた。

ふと、孝太郎は今朝、友達がさそいに来たことを思い出す。あんなに引っこしをいやがっていたのに、冬休みの間に友達ができたのだ。友達といっしょに学校に行った孝太がうらやましい。

- ・傍線の主人公の気持ちを問う問題。正解の「1 自分にも友達がいればよかった」を選択した児童は56.7%
- ・「2 自分も友達をさそえばよかった」を選択した27.6%の児童は、傍線部分のみで気持ちを考え、前後の文から気持ちを推測することが出来ていない。

②場面の変化を読み取り、変化した段落を答える。〈指導事項・読む一ウ〉

（正答率59.4%・目標値60.0%）【知識】

- ・正解の【4】を選択した児童は59.4% 【1】を選択した児童が28.3%いる。
- ・上記の場面【1】を選択した児童は、この場面を「今朝」のことと捉えたと考えられる。

※場面の変化を捉えることは、場面を区切って場面毎に詳細に読む授業では難しい。

③目的や必要に応じて文章の内容を読み取る。

〈指導事項・読む一イ〉（正答率44.4%・目標値45.0%）【応用】

こうして子どもが生まれて、みんなそれぞれが、地上に出ようと一生けんめい体を動かします。すると親が卵を産んだあとに堅め、また何十日もの間に人間や動物にふまれたり、雨が降ったりして固くなった砂が、少しずつくずれはじめます。くずれた砂は子ガメたちの間を通過して下の方に落ちてゆき、少しずつ少しずつ、たくさんの子ガメのいる所が浅くなってゆきます。

(中略) みんながいっしょになって力を合わせないと、子ガメたちは深い砂の中から出られないのです。

「どうして、みんなで力を合わせないと地上に出られないんだろう」

「それは、子ガメたちが地上に出る様子を読めばわかるよ。子ガメたちが地上に出ようとしてそれぞれ動くことで 、地上に出られるんだ」

- ・上の に正解の「4 固い砂がくずれて」を選択した児童は47.8% 「1 砂を登って行って」を選択した児童が22.2% 「2 卵のからを破って」を選択した児童が21.3%。
 - ・1を選択した児童は、問いの答えを探すために読むという目的が明確でなかったと考えられる。
 - ・2を選択した児童は、波線の部分を読み落としているか、波線の部分がどの段落を指しているのかが読み取れていないものと考えられる。
- ※説明文の内容を年下の人に説明するためにパンフレットを作成するなどの言語活動（言語活動例）を通して、目的や必要に応じて文章の内容を読み取らせるような指導の工夫が求められる。

④資料を読み取り、条件に従って文を書き直す。＜指導事項・読む—エ・国語の特質—イ（キ）＞【活用】
（正答率44.4%・目標値45.0%）

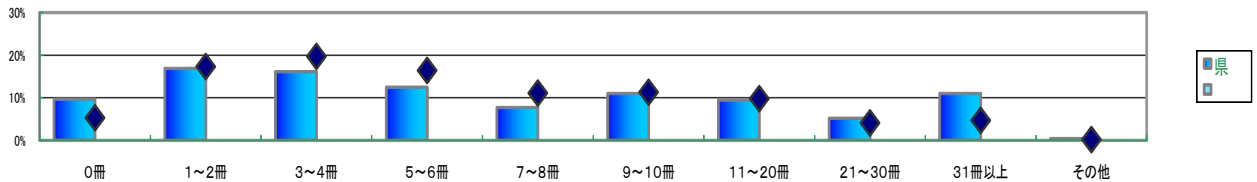
★「お楽しみタイム」は、「しきしゃたいけん」や「楽器当てクイズ」で楽しんでください。小さい子やお年寄りの方、みなさんに楽しんでもらえる出し物です。

- ・上記の文を問題の会話文「じゃあ、『お楽しみタイム』に何をするのかはひみつで、当日のお楽しみというメッセージで書き直そうかな。」を踏まえて書き直す問題。
- ・無解答率が11.2%で、本調査では最も高い。大問7の作文の無解答率が7.6%で、正答率が79.9%であったことから、会話文の意図、つまり資料修正の条件を的確に捉えることが出来なかった児童が少なくなかったと考えられる。

■質問紙に見られる課題

(1) 不読者数が全国平均の1.8倍

＜1か月に読んだ本の冊数（教科書や参考書、マンガは含まない）＞



	0冊	1~2冊	3~4冊	5~6冊	7~8冊	9~10冊	11~20冊	21~30冊	31冊以上	その他
全国	5.3	17.3	19.7	16.4	11.1	11.3	9.8	4.1	4.7	0.2
県	9.7	16.9	16.1	12.5	7.7	11	9.5	5.2	11	0.4

(2) 「物語を主人公の気持ちなどを考えながら読む」ことを全くしない児童が1割を越えている

選択肢	1	2	3	4	その他	肯定率
	とてもあてはまる	まああてはまる	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない		
全国	37.8	34.5	20.0	7	0.7	72.3
県	32.7	36.8	18.4	11.3	0.8	69.5

- ・国語の授業が日常に生かされていない。
- ・話の筋だけを追う読書になっている。
- ・良質の物語を手渡す指導が求められる。

2 中学校国語の結果

- ・偏差値50.4（知識50.5 活用49.9）で、昨年度の偏差値49.9よりやや上がっているが、活用に課題がある。
- ・話すこと・聞くことの偏差値が49.5、読むことの偏差値が49.5。特に説明的文章の内容を読み取ることに課題がある。
- ・「漢字を読むこと」の偏差値は49.7で、正答率56.5%は目標値61.3%にも到達していない。

■課題が見られた問題

（1）話すこと・聞くこと

○話し手の意見に対して自分の考えをもち、質問する。〈指導事項・聞く—エ〉

（正答率23.1% 目標値25.0%）【活用】

- ・質問に対する答えが示されており、そこから質問を予想し、話し言葉で書くことが求められている。本調査の中で無解答率が最も高く、43.0%の生徒が記述していない。
- ※報告や紹介などの活動の中で「必要に応じて質問しながら聞く」指導を確実に行う必要がある。

（2）漢字を読むこと（正答率56.5%・目標値61.3%）

- ・昨年度は書き取りに課題があったが、今年度は「漢字の読み」にも課題が見られる。
- ・「余暇（正答率20.4%） 丹念（72.4%） 狭める（62.6%） 交易（39.7%）」は、いずれも目標値に届いていない。
- ・「漢字を読む」ことに関しては、語彙不足も原因と考えられる。
- ・漢字を書くことについてはいずれも目標値は上回っているが、「勤務（49.6%） 看板（50.4%）」と、小学校で学習した漢字の定着が十分とは言えない。

（3）読むこと

○説明的文章において、文章の構成や展開をつかむ。〈指導事項・読む—イ〉

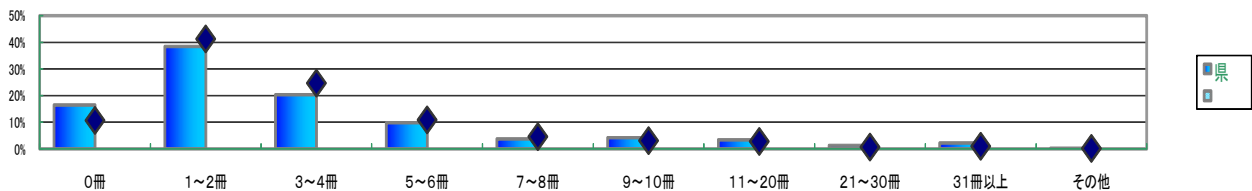
（正答率49.9%・目標値50.0%）【知識】

- ・正解「1 前の段落で述べたことをふまえて、さらに別の角度から説明を加え、自分の考えを補強している」を選択した生徒は49.9% 「2 前の段落で述べた、映画におけるストーリーの重要性を、映画監督の作業手順を例に説明している」を選択した生徒が27.4%
- ※段落の書き出しに着目して段落相互の関係を捉える学習や、例示の目的や効果を考えながら文章の展開を捉える学習が求められる。

■質問紙に見られる課題

（1）不読者数が全国平均の1.5倍

〈1か月に読んだ本の冊数（教科書や参考書、マンガは含まない）〉



	0冊	1~2冊	3~4冊	5~6冊	7~8冊	9~10冊	11~20冊	21~30冊	31冊以上	その他
全国	10.7	41.3	24.7	10.9	4.6	3.1	2.8	0.7	1	0.2
県	16.5	38.4	20.3	9.8	3.7	4.2	3.4	1.3	2.2	0.3

（2）辞書をまめに引く習慣のない生徒が3割を越えている。

〈わからない言葉が出てきたときは辞書などで調べる（電子辞書を含む）〉

選択肢	1	2	3	4	その他	肯定率
	学校でも家でも調べている	家では調べている	学校では調べている	ほとんど調べない	その他	
全国	13.9	46.1	11.6	28.2	0.3	60
県	8	50.1	9	32.9	0	58.1

- ・小学校では選択肢4は2割程度。
- ・分からない言葉に出会ったときは、教師の指示がなくても自ら辞書を引くことを、まず授業中に習慣づけたい。

3 指導の改善のポイント

(1) 全ての学校で早急に対応してほしい「不読者をゼロに近づける取組」


- ・読書は国語力を構成している「考える力」「感じる力」「表す力」「国語の知識等」のいずれにもかかわり、これらを育てる上で中核となるものである。
 (「これからの時代に求められる国語力について」文化庁文化審議会)
- ・「漢字の読み」や語彙量に課題が見られる児童生徒、まとまった量の文章を素早く読み取ることが苦手な児童生徒の学力を育成する基盤として、本に慣れ親しませることが求められる。
- ・生涯にわたって自ら本を手にする人を育てる視点に立つと中学校3か年の読書時間の確保と読書指導の充実が一層必要となる。
 →国語科だけでなく、学校全体としてどのように取り組むのか2学期までに方策を立てる

中学校	大分県	全国	秋田県
①毎日朝読書をしている	29.0	64.9	79.4
②週に1回以上、朝読書など一斉読書をしている	50.4	82.1	92.7

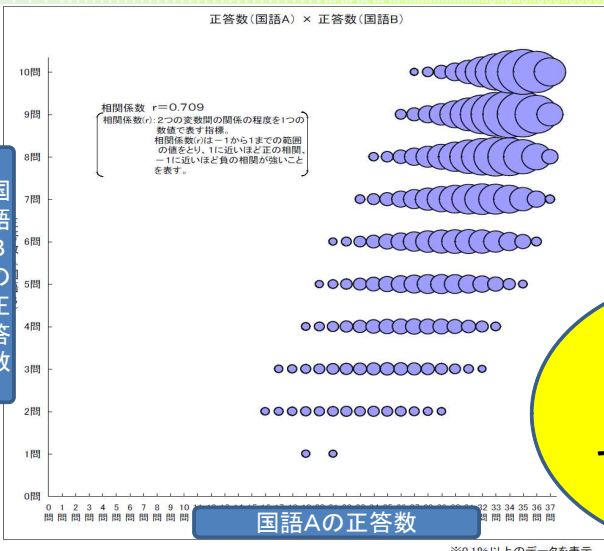
*大分県データは県調査。他の数値は全国学力・学習状況調査の数値(H24)

(2) 言語活動を通して指導事項を確実に指導する授業を全ての教室で

課題解決に向けた指導の改善を目指して



中学校国語(全国)のバブルチャート



◇国語Bの正答数が多い生徒は、国語Aの正答数も多い。

◇国語Aの正答数が多い生徒は、国語Bの正答数で広く分布している。

基礎基本の充実だけではB問題に対応する力は高まらない。

- ・国語の教科の特質として、【基礎基本】の積み上げだけでは【活用】は高まらないと言われている。逆に【活用】に対応した授業の中では【基礎基本】を充実させることが出来ると言われている。
- ・したがって、【知識】に課題がある学級であっても、知識を詰め込むことやドリル的なことに重点を置く授業は避けるべきである。

- ・【知識】【活用】の両方に課題が見られる学校は、単元を貫く言語活動を設定した課題解決的な展開の授業実践の一層の充実が必要である。→学習指導要領の確実な実施
- ・その中で、【知識】に課題がある学校は、学習用語の確実な定着を重視する。
 - ・教科書の「大切」「ここが大切」等にまとめられている学習用語は、その学年で確実に指導する。一度学習した用語は授業で使う。指導者があいまいな言葉を使わない。
 - ・意見を述べたり、報告するときの話や文章の構成、指示語の指す部分や、段落の書き出しに着目した段落相互の関係の把握等、基礎的な知識や読み方の基本を自覚的に身に付けさせたい。そのために、1時間の振り返りを充実したい。

(3) 【知識】に課題がある学校で特に必要な 「組織的に取り組む意図的・計画的な家庭学習」の指導

①漢字や語句、文法、表現技法等の確実な習得には、繰り返し練習が不可欠。

- ・小学校では、データベースを活用して、学校全体で計画的に取り組むことが望まれる。その際、特に低学力層の児童が意欲をもつことができるよう工夫をしてほしい。
- ・中学校では、教科書に出てきた漢字をただ練習させるのではなく、「形が似た漢字」「音が同じで使い分けが必要な漢字」「類義語」「対義語」等、テーマを決めてまとめて指導することも有効である。

②国語への関心を高める学習を宿題で！

- ・詩、短歌、俳句、古典等の暗唱や視写、新聞のコラムの要約や視写等、児童生徒の実態に応じて、国語への関心が高まる宿題を工夫して出すことも重要である。

(4) 主に【知識】に課題がある学級の国語科授業で求められる工夫

①記述する力を高めるために様々な場面で「書く」活動を設定する工夫。

- ・記述の指導は、「書くこと」の指導だけでなく、3領域1事項に係る様々な活動を効果的に関連させることが重要である。→「自分で考える」場面が生まれる。

例（話すこと・聞くこと）※以下の事柄は「話す・聞く能力」で評価すること

- ・インタビュー等の取材・・・目的に応じて重要語句や中心となる事柄を押さえて箇条書きするなど、要点を簡潔に素早く記述すること。
- ・スピーチ原稿・・・目的や場面に応じた原稿用紙を活用すること。話す内容の全てを書くもの、構成が分かるような見出しを中心に書くもの、重要語句や中心となる事柄をメモするものなど、目的や場面、話す分量に応じて書き分けること。

(書くこと)

- ・手紙、礼状、依頼状、記録、報告、紹介、説明、詩、短歌、俳句、物語、随筆（小学校）、鑑賞文、図表などを用いた説明・記録、案内、意見文、批評文（中学校）等、文章の形態や種類の特徴を踏まえて記述すること。

(読むこと) ※以下の事柄は「読む能力」で評価すること

- ・文章を読んで解釈し、自分の考え（感想や意見、評価、批評等）を明確に書くこと。
- ・目的に応じて本文を引用したり要約したりすること。

②要約する力をつける指導の工夫。

- ・目的によって要点や字数等が異なるので、様々な目的を設定することが必要となる。

- 例
- ・文章全体を年下の人に分かるように短くまとめて説明する。
 - ・書かれていることを図や表にまとめて、それを用いて人に説明する。
 - ・課題解決のための情報としてカードに大切なことを箇条書きする。
 - ・一つの文章を様々な目的を変え、字数を変えて要約する。

- ・目的に応じた要約はどちらかという観点で、友達の要約と自分の要約とを比較する



(5) 主に【活用】に課題がある学級の国語科授業に求められる工夫

①目的に応じた様々な読み方を経験させる工夫

- ・必要な情報を素早く見付ける読み方や、必要な部分のみを詳細に分析する読み方等を指導できる言語活動を設定することが大事である。→学校図書館を活用した授業の実施

②条件に即応して記述しなければならない場面を設定する工夫

- ・時間・字数・文章の形態や種類・文体（常体・敬体・一人称・三人称等）・テーマ・対象・使用語彙・要約・引用・例示・技法（反復・倒置・比喻・反語等）・構成（頭括型・尾括型・双括型・現在→過去→現在）等の条件を踏まえる必然性のある言語活動を設定する。
- ・上記のような条件等に即応するには、優れたモデルを意図的に提示することが重要である。

1 小学校数学の結果

- 偏差値は知識 52.1、活用 51.8。
- 「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の 4 つの領域において目標値を上回っている。
- 「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の 4 つの領域において偏差値は 50 を上回っている。

2 課題の見られた問題と指導のポイント

- 10 分配法則等を活用して計算を簡単に行う工夫をしたり、式の表現を吟味したり、修正したりすることができる。

○課題

正答率は 42.8% であり、目標値を 2.8 ポイント上回っているものの、平成 24 年度調査に類似した問題があり、その正答率は 46.6% であった。「 $100 - 2 \times 13$ 」の誤答を選んだ児童は 20.0%、「 $100 \times 13 - 2$ 」の誤答を選んだ児童は 19.1% であり分配法則の意味の理解について課題がある。

○指導に当たって

交換法則、結合法則、分配法則を活用して計算を簡単に行う工夫をしたり、乗法法則の筆算形式の中に分配法則を見つけたりするなど、四則に関して成り立つ性質についての理解を深め、必要に応じて活用できるような指導が大切である。また、計算の順序についての決まりを確認したりする活動を取り入れることが考えられる。さらに、分配法則を使って複雑な計算が簡単にできるような問題を児童に作らせる活動も考えられる。分配法則の有用性を感じさせる取組を計画的に繰り返し行うことも大切である。

- 15 直方体の展開図から辺や面の構成について理解することができる。

○課題

正答率は 57.9% であり、目標値を 2.1% 下回っている。一つの辺と垂直な二つ面を選ぶ問題であるが、平行になる二つの面を解答に選んだ児童は 16.6% であり、一つの面だけ垂直になる解答を選んだ児童は 14.6% であった。平成 24 年度調査に平行な面についての問題があり、その正答率は 87.2% であった。立体図形と展開図の関係及び、辺と面の「垂直」や「平行」の理解に課題がある。

○指導に当たって

立方体や直方体、展開図を実際に操作させながら、辺、面、頂点などの構成要素の個数や位置関係に着目させ、これらの特徴を明確につかませることが大切である。また、一つの立方体から、一通りではなく幾つかの展開図を考えさせたり、展開図からできあがる立

体図形を想像させたりする活動の中で、辺や面の関係についてふれながら理解を深めさせていくことも考えられる。観察したり、構成したり、分解したりする活動をバランスよく取り入れることが大切である。

18 作図の説明に、ひし形の特徴を利用することができる。

○課題

正答率は22.0%であり、目標値を8.0%下回っている。今回の調査の中で最も正答率が低く、無解答率は20.0%であり最も高かった。与えられた4つの言葉から、2つの言葉を選択はできているが、説明が適切でなかった児童は30.5%であった。ひし形の特徴の理解及び、図形の特徴などを適切に用いた図形の見方に課題がある。

○指導に当たって

辺の位置関係や長さに着目させ、平行四辺形やひし形、台形などの四角形の特徴をとらえさせることが大切である。また、平行四辺形やひし形、台形などのいろいろな四角形を観察させたり、操作させたりすることを通して、それぞれの図形の性質について調べたり、分類させたりする活動も考えられる。実際に図形をコンパスなどを用い作図させ、かき方を説明させたり、その図形がかけるわけを説明させる活動も大切である。

20 (1) 気温に関する二つの折れ線グラフを適切に読み取り、その情報を適切に処理することができる。

○課題

正答率は47.1%であり、目標値を2.9%下回っている。平成24年度調査に同様の問題があり、その正答率は79.7%であった。平成24年度は気温が上昇する(右上がり)グラフから読み取る問題であったが、今年度は気温が下降する(右下がり)グラフからの読み取りであったことが影響していると考えられる。目標値も15ポイント低く設定されていたが、県の正答率は32.6%低くなっている。グラフから必要な情報をもとに、適切に処理することが課題である。

○指導に当たって

複数のグラフを示して、その中から必要なグラフを選択させたり、情報を読み取る活動を取り入れたりすることが考えられる。その際に、目的を確認させ、何に着目してグラフを読み取ったり、選択したりすればよいのかを明確にしておくことが大切である。また、他教科との学習内容にも関連させながら、グラフや表を読んだり、かいたりする活動を取り入れ、算数科の学習内容が関連していることを、児童に実感させ、算数の学習の有用性にふれさせておくことも大切である。

3 中学校数学の結果

- 偏差値は知識 51.1、活用 50.7。
- 「数と式」「図形」「関数」の3つの領域において目標値を上回っている。「資料の活用」は目標値を下回っている。
- 「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」の4つの領域において偏差値は50を上回っている。

4 課題の見られた問題と指導のポイント

5 正の数、負の数を利用して表から平均を求めるときの間違いを指摘することができる

○課題

正答率は32.3%であり、目標値を2.3ポイント上回っている。無解答率は18.4%であった。正の数、負の数を使って能率的に処理する際の基準についての理解に課題がある。

○指導に当たって

表や図などを利用して、仮平均の意味を視覚的にとらえさせるなどの工夫が大切である。仮平均の考え方をを用いることにより、効率よく求められることを実感させる場面を設定し、正の数と負の数の有用性を説明させることも大切である。

8 方程式の解き方の間違いを指摘し、正しく直す方法を選ぶことができる。

○課題

正答率は23.9%であり、目標値を1.1ポイント下回っている。今回の調査の中で最も正答率が低い問題であった。「短い」という問題の表現から、マイナスが含まれた式を選択する生徒が多かったことが原因であると考えられる。数量関係を的確に表現することに課題がある。

○指導に当たって

式を用いて表したり読み取ったりするためには、図や具体的な数を使うなど、関係を理解しやすくする工夫が必要である。また、立式の過程を振り返る場面が大切である。

18 同じ底面で高さも等しい柱体と錐体の体積の関係について、正しく理解している。

○課題

正答率は33.8%であり、目標値を6.2ポイント下回っている。柱体の体積は錐体の体積の3倍であることを理解している生徒は6割であったが、問題を読み違え1/3倍と答えた生徒が29.7%であった。

○指導に当たって

錐体や球の体積については、柱体の体積との関係を予想させ、その予想が正しいかどうか模型を用いたり実験による測定を行ったりして確かめるなど、実感を伴って理解させる場面を設定することが考えられる。円すい、球、円柱とそれぞれの体積を関連づけながら理解させていくことも大切である。

19 (2) あるデータの最頻値を求めることができる。

20 資料に極端な数値がある場合の代表値について正しく理解している。

○課題

19(2)の正答率は41.0%で目標値を4.0下回っている。無解答率は26.0%であった。20の正答率は29.7%で目標値を5.3下回っている。最頻値や中央値などの用語の理解に課題がある。

○指導に当たって

資料の傾向を読み取る場合、平均値、中央値、最頻値などの代表値を用いる場合があるが、適切ではない場合もある。日常生活を題材とした資料を扱う中で、ふさわしいかどうかを判断させる場面の設定が考えられる。そのような場面を繰り返すことで求め方や、用語の意味の理解を深めさせ、代表値を求めたりして資料の傾向をとらえ、その結果を基に説明するという一連の活動を経験できるようにすることが大切である。

22(2) クッキー1枚分の重さとできあがるクッキーの枚数の関係が反比例の関係であることを指摘し、その判断の理由を説明することができる。

○課題

正答率は24.7%で目標値を5.3下回っている。反比例の関係であることを指摘できた生徒は半数を超えている。比例、反比例の基本的な内容の理解及び、根拠を基にして数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

○指導に当たって

比例、反比例の学習は、日常生活において数量関係を探求する基礎となるものである。一般的、形式的に流れることなく、具体的に事象を考察することを通して、関数関係を見だし、表現し考察する能力を培うことが大切である。小学校算数科で学習した比例、反比例を関数としてとらえ直させることも必要である。また、グラフや式などを根拠に、明確な説明ができるように、ノートにまとめさせたり、説明の不足している点や数学的にどのような表現をすべきかを考えさせることが大切である。

平成25年度大分県学力定着状況調査の結果から（理科）

大分県教育庁義務教育課

1. 小学校理科の結果

(1) 結果の概要（正答率）

	H25	H24
県全体 偏差値	50.9	49.0
◎全ての設問で目標値に達している	天気のようにすと気温 1年間の動物の様子 1年間の植物の成長 物の体積と力	天気のようにすと気温 動物の体のつくり 月と星
▼半数以上の設問で目標値に達していない	動物の体のつくりと運動 水のすがたとゆくえ	物の体積と温度 電気のはたらき

(2) 課題がみられた問題

③(3) 検流計を使うときの注意点がわかる。

けん流計がこわれることがあるので、けん流計に
() だけをつないではいけない。

モーター(23.9%) スイッチ(10.9%)
かん電池(47.1%) ○ 豆電球 (18.1%)



⑧(1) 月の見える方位を、方位磁針で読み取ることができる。

月は矢印の方向に見えました。
月が見えた方位を答えましょう。

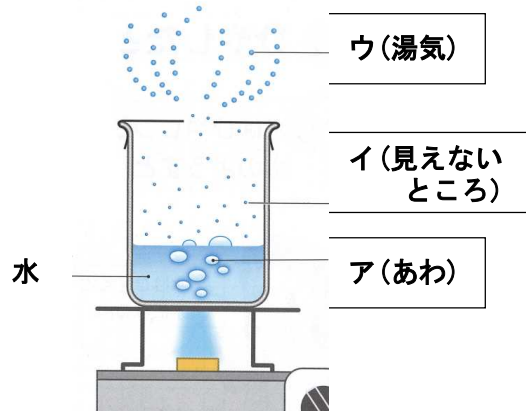
方位磁針の針は北。使い方は正しい。
「読み取り」= 意味理解
○(47.5%) ×(48.0%) 無回答(4.5%)



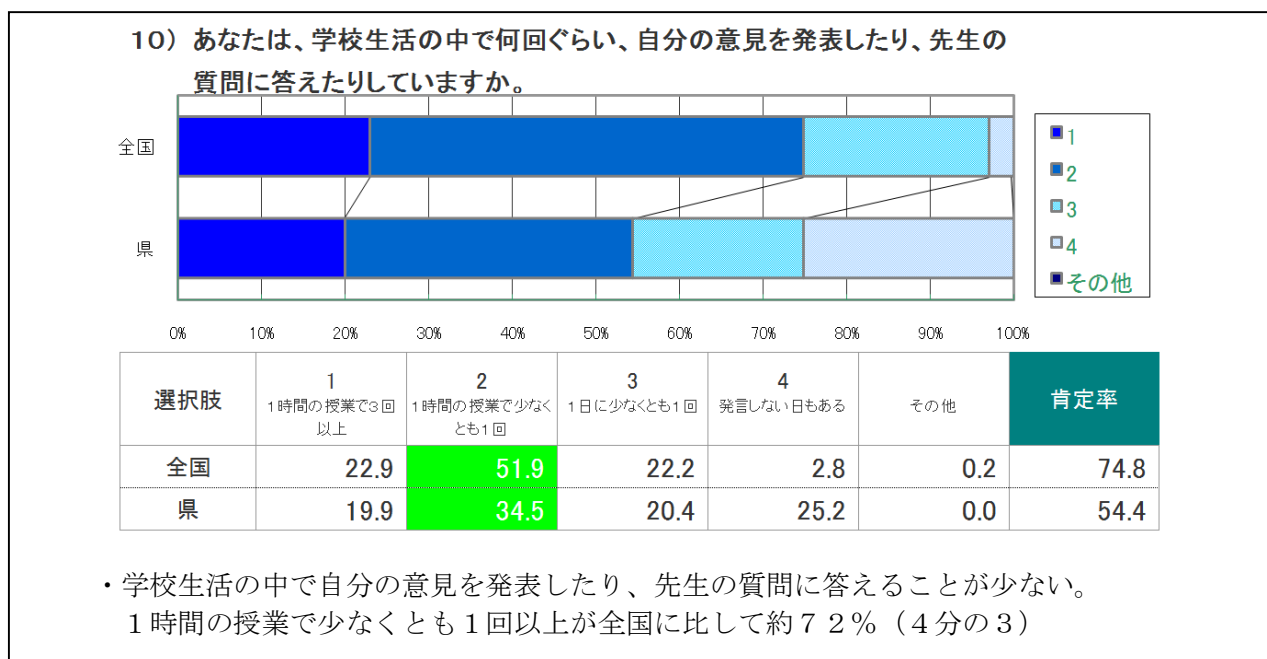
⑫(3) 水が沸騰してから湯気になるまでの、水の状態を指摘できる。

	ア	イ	ウ	
1	気体	気体	気体	(23.1%)
2	気体	気体	液体	(29.5%) ○
3	液体	気体	気体	(37.0%)
4	液体	液体	気体	(8.1%)

水は温度によって液体，気体，
または固体に状態が変化する
ということをとらえるように
する。(学習指導要領解説編)



(3) 質問紙にみられた課題



2. 中学校理科の結果

(1) 結果の概要（正答率）

	H25	H24
県全体 偏差値	50.0	50.2
◎全ての設問で目標値に達している	植物の分類 植物のからだのつくりとはたらき 気体の発生と性質	植物の分類 植物のからだのつくりとはたらき 光と音の性質 火山活動と火成岩 地層の重なり
▼約半数以上の設問で目標値に達していない	身の回りの物質とその性質 水溶液 物質の状態変化 地層の重なり	力と圧力 顕微鏡の使い方

(2) 課題がみられた問題

4(1) プラスチックの密度を求め、プラスチックの種類を特定できる。

種類	密度 [g/cm ³]	
ア ポリ塩化ビニル	1.40	(64.4%)○
イ ポリプロピレン	0.90	(12.0%)
ウ ポリエチレン	0.95	(15.0%)
エ ポリスチレン	1.06	(6.1%)

4種類のうちいずれかできている
物体Aの質量は70g、体積は50cm³

金属やプラスチックなどの様々な固体の物質の密度を測定する実験を行い、求めた密度から物質を区別できる

11(2) 火山の形から含まれる鉱物の色を判断し、鉱物の種類を推測できる。



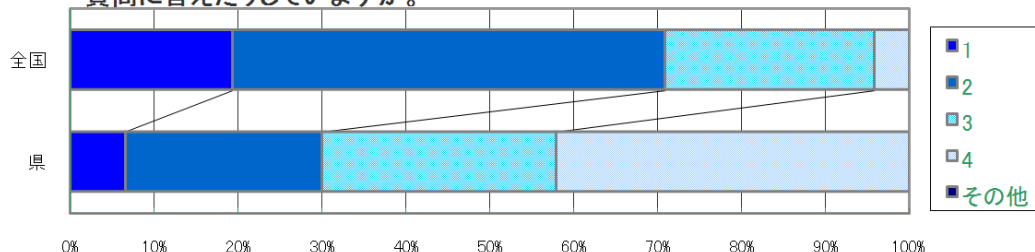
溶岩に無色鉱物が多い

無色鉱物の例

1	A	石英	(37.5%)○
2	A	輝石	(15.1%)
3	B	石英	(26.7%)
4	B	輝石	(17.3%)

(3) 質問紙にみられた課題

10) あなたは、学校生活の中で何回ぐらい、自分の意見を发表或し、先生の質問に答えたりしていますか。



選択肢	1 1時間の授業で3回以上	2 1時間の授業で少なくとも1回	3 1日に少なくとも1回	4 発言しない日もある	その他	肯定率
全国	19.3	51.5	24.9	4.1	0.1	70.8
県	6.5	23.4	27.9	42.1	0.0	29.9

- ・学校生活の中で自分の意見を发表或し、先生の質問に答えることが極端に少ない。
1時間の授業で少なくとも1回以上が全国に比して約42%（2分の1以下）
「発言しない日もある」が大分県では最多の選択肢

3. 指導の改善のポイント

(1) 児童生徒の実態を把握しながら指導する問題解決の充実

- 児童生徒が授業の狙いをしっかりと受け止めているか、自分自身の問題として理科の学習を進めることができているかを確認しながら指導する。
- 児童生徒の考えを顕在化させ、実験計画の意味を児童生徒一人一人が理解しているかを確認しながら指導する。
- 例えば、小学校³の光電池で走る車を使った実験の場合、実験計画を一方向的に指導するのではなく、なぜ日なたから日かげのコースで走らせるのか、その実験計画の意味を児童が理解しているのかについて確認することが考えられる。
- また、「電気の働き」の電流回路の実験の場合、モーター、乾電池、豆電球、光電池、発光ダイオードはそれぞれが単なる接続部品ではなく、電気を起こす働きのあるもの、電気を他のエネルギーに変換させるものという見方ができるように展開していくことも考えられる。

(2) 科学的な言葉の意味を自然の事物・現象と関係付けて考察する学習指導の充実

- 1つの単元の学習内容であっても、知識・技能の習得や活用に課題が見られる。
- 例えば、小学校 **12** の水の状態変化の場合、「水蒸気」「湯気」「温度」などの言葉を、水が沸騰したやかんの口から勢いよく水蒸気や湯気が出るなどの自然の事物・現象と関係付けて説明するといった日常生活との関連を図る学習が考えられる。
- 例えば、中学校 **6** の溶解度曲線の場合、「溶解度」「温度」「溶質」「溶媒」「溶液」「飽和水溶液」などの言葉を、熱い紅茶に砂糖が溶けるなどの身近な事物・現象と関係付けて説明するといったことも考えられる。

(3) 学習した科学的な言葉や概念を使用する機会の充実

- 科学的な言葉や概念を使用する機会が少ないために、それらの習得に課題が見られる。
- 学年や学校種間の系統性や単元間の関連性を意識した指導計画を立案し、科学的な言葉や概念を使用する機会を意図的に設定することが考えられる。
- 例えば、小学校第3学年「電気の通り道」で学習する「回路」という科学的な言葉を、第4学年「電気の働き」、第5学年「電流の働き」、第6学年「電気の利用」、中学校の「電流」「電流と磁界」学習においても使用する機会を意図的に設定するような指導の工夫・改善が大切である。

(4) 中学校理科における基礎的・基本的な知識・技能を習得させる学習指導の充実

- 中学校理科においては、中学校3年間を見通して指導を改善したり充実させたりすることが大切である。
- 自然の事物・現象に関して量的な関係を見いだすためには、例えば、電力量を求める計算においては、独立変数、従属変数を意識した指導を行うようにする。また、質量パーセント濃度を求める計算においては、溶液、溶媒、溶液についての知識を身に付けた上で、質量パーセント濃度の意味を理解する指導を行うようにする。
- 観察・実験における結果の処理ができるようにするために、例えば、観察・実験に際して定量的に測定した結果を表にまとめたり、数値を処理したり、グラフ化したりする学習活動を充実させることが大切である。
- 各領域の指導改善の視点を次に示す。
 - 【物理的領域】
 - ・密度や電力、電力量などの物理量の意味を理解する。
 - 【化学的領域】
 - ・化学的な事物・現象について粒子のモデルと関連付けて理解し、説明できるようにする。
 - 【生物的領域】
 - ・生物の体のつくりや共通点や規則性を見いだす。
 - 【地学的領域】
 - ・気体に関する知識を、活用できる知識として身に付ける。

(5) 理科授業における言語活動の充実

- 質問紙調査から大分県は「自分の意見を発表したり、先生の質問に答えたりする」生徒（中2）の割合が全国に比較して42%（2分の1以下）、「発言しない日もある」の選択肢が最多と分かった。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・「授業中は黙って教師の説明を一方向的に聞いている」中学生・「説明したことで教えたつもりになっている」教師 |
|--|

- 理科の授業で上記のような授業の繰り返しは、大きな損失であり改善が急務である。
- 観察・実験の実施の前に、時間をとって予想（仮説）や検証の方法を考えさせたり、観察・実験の後に生徒（児童）の考察をグループやクラス全体で共有させたりする指導を重視する必要がある。

平成25年度 大分県学力定着状況調査の結果から（英語）

1 中学校英語の結果

- ・知識の偏差値が49.3で、活用の偏差値49.8より低い。
- ・観点別に見ると、目標値に対し「外国語理解の能力」は1.4ポイント上回っているが、「言語や文化の知識・理解」は2.5ポイント、「外国語表現の能力」は2.0ポイント下回っている。
- ・領域別に見ると、「聞くこと」は目標値に対し2.3ポイント上回っているが、「読むこと」は0.4ポイント、「書くこと」にいたっては2.4ポイント下回っている。
- ・「言語や文化の知識・理解」、「書くこと」についての課題が見られる。

■課題が見られた問題

(1)「聞く力」

リスニング問題10問中7問が目標値に達していた。動作や時刻を聞き取ることや、対話の内容を聞いて適切な応答を選ぶことができていなかった【知識】。また目標値には達しているものの、対話の内容を聞き取り資料をもとに英語で答える記述式の問題は23.8%が無解答だった【活用】。

・指導の改善のポイント

- 基本的な語彙や場面に応じた応答の仕方については、教師と生徒のやり取り、生徒同士のやり取り等を日常化することや、具体的な場面設定のもと言語活動を行うことで習熟させる。
- はじめに聞き取りの視点を与えるなど、まとまりのある英文の中からキーワードや要点を聞き取る工夫をする。
- 聞いたばかりの英文のスキプトを音読したり、聞き取った単語や文を書いたりなど、聞いたことを次の活動に活用する。

(2)「読む力」

対話の流れとグラフから読み取る問題について2問中2問とも目標値に達しないなど課題が見られた【活用】。長文の読み取りの問題では内容に関する質問に英語で答える記述式の問題において36.4%という全問題の中で一番高い無解答率だった【知識】。内容把握においても課題が見られる【知識】。

・指導の改善のポイント

- 教科書本文に出てくる指示語をもとの単語にもどして音読したり、指示語の指す内容に留意した読み方の工夫をする。
- 段落ごとに何が書かれてあるのかをつかむ質問や、英問英答、内容の要約、タイトル付けなど、発問の工夫をして読みを促す。また数値等の資料と英文を一致させて概要をつかむための視点をもった読み方に習熟させる。
- 読んだ内容について、自分の考えを自分の言葉で述べるなどの活動を習慣づける。

(3)「書く力」

「聞き取ったことを書く」「読み取ったことに対する英語の質問に英語で答える」「単語を正しく書く」など、各領域での書くことを求める質問になると正答率が下がる。また記述問題（条件英作文と自由英作文）においては5問中4問が目標値に達していなかった【活用】。特につながりのある3文以上の英文を書く自由英作文において、1文目の正答率が57.1%と目標値を7.9ポイント下回り【知識】、2文目も54.1%と10.9ポイント【活用】、3文目まで書けている生徒については1ポイント、目標値を下回っている【活用】。また目標値に達していない4問については無解答率も高く、約20%と5人に1人が英文を書けていないことがわかる。

・指導の改善のポイント

- 学習した英語は、口頭で表現できることはもちろん、書いて表現できるように指導を工夫する。
- 1年生の頃から **and** や **but**、次第に **because** など、接続詞を用いて複数の英文を書くことに計画的に取り組む。
- Show & Tell** や日記・思い出、**speech** など、1つのテーマで複数の英文を作る活動を計画的に取り入れながら、英文を書くことに慣れさせていく。
- 学んだ英語を使って、自分のことや自分の考えを表現する活動に取り組みさせる。

(4) 「言語や文化についての知識・理解」

「語形・語法の知識・理解」「語彙の知識・理解」「単語の並べかえ（語順）」あわせて12問中7問が目標値に達していない【すべて知識】。所有代名詞、三単現の疑問文・否定文の形や、単語では **listen**（聞く）や **interesting**（おもしろい）など使用頻度の高い文や単語であるにもかかわらず目標値を約10ポイント下回るなど基本事項の定着に課題がある。並びかえの問題では【一般動詞現在の否定文（**I don't want ….**）】、さらに【所有格の代名詞＋形容詞＋名詞の文（**my new friend**）】では正答率が目標値を22.3ポイント下回っている。

・指導の改善のポイント

- 基本的な英語の語順を徹底して指導しておく。→書くことの指導にもつながる。
- 語彙や語法の習得においては、ドリル的な反復学習や、単語テスト・小テストなどの活用も必要である。ただ説明中心の授業にならないよう工夫する。生徒にたくさん「使わせて」習得させることが大切である。

2 授業改善のポイント（全体を通して）

- (1) 基本的な語彙や表現を確実に定着させる。
- (2) 「外国語表現の能力」特に「書くこと」の指導の改善が強く求められる。
- (3) C評価の生徒への指導の手だてをもって授業にのぞむ必要がある。

(1) ①基本的な語彙や表現の定着

曜日、日付、数字、また簡単なやりとりなどについては、日頃から **Warm-up Activity** や **Classroom English** などでも繰り返し習熟させる。「使う」場面を大切に。

②既習表現の繰り返しの活用

既習の単語や文をその後の表現活動にも繰り返し取り入れることで、既習表現の定着を図る。また、小学校の外国語活動で行ったことのある活動を1年生で再びやってみることで、「あ！これやったことある！」という安心感と取り組み易さを生徒に感じさせ、意欲を喚起する。（小学校外国語活動用教材『**Hi! Friends!**』を見ておく）

(2) ①アウトプットの活動の充実

学習した表現においては、「言えて」「書ける」よう、指導の流れを工夫する（暗唱・暗写も効果がある）。「使う」場面を意識的に増やすことで表現の定着を図る。

②「書く」活動の習慣化

「書く」ことには慣れさせておきたい。定期テストの中に盛り込んだり、そのためには日頃から必ず「書く」場面を繰り返し設けておくことで、「書く」ことへの抵抗感をなくす。（「書く」ことが「写す」とどまらないよう注意を）

(3) 興味・感心の持続と苦手意識の克服（C評価の生徒への手だて）

小さな成功体験（「自分にもできた」感）をもたせる。ペアやグループでのプレゼンテーションなど、役割をもたせ形にして発表させることで「やればできる」という達成感を感じさせる。それがその後の英語学習に対する意欲につながるようにする。また、いわゆる「手を変え、品を変え」のために教材研究や日頃からの情報収集（アイデア集め）を積極的に行っておくことが大切。個別指導やチームティーチング（ALTとの、または日本人との）の活用、習熟度別少人数指導等、指導の工夫と改善が求められる。

※テストや調査結果の分析と活用

評価とともに、学習定着状況を学年・学級・個人別に把握し、指導すべき課題を整理して手立てを考えていくことが大切である。

※4 技能を統合した学習活動

原点に立ち返って指導を工夫する。

「中学校学習指導要領解説外国語編」第1章2より

～自らの考えなどを相手に伝えるための「発信力」やコミュニケーションの中で基本的な語彙や文構造を活用する力、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力などの育成を重視する観点から、「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等について、自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することが可能となるよう、4技能を総合的に育成する指導を充実する。～